

イヤホン依存症の危険性

1) きっかけ

きっかけは電車での風景だった。多くの人がスマホを手に入っていた。見慣れた風景だった。しかし、ある時から耳にイヤホンをしている人が増えてきた。最近、イヤホン依存という言葉やその危険性を耳にした。そこで、こうした社会現象が"と"の程度自分の身近なところで"生じているか"を統計的に確認し、リスクに対する理解を促したいと考えた。

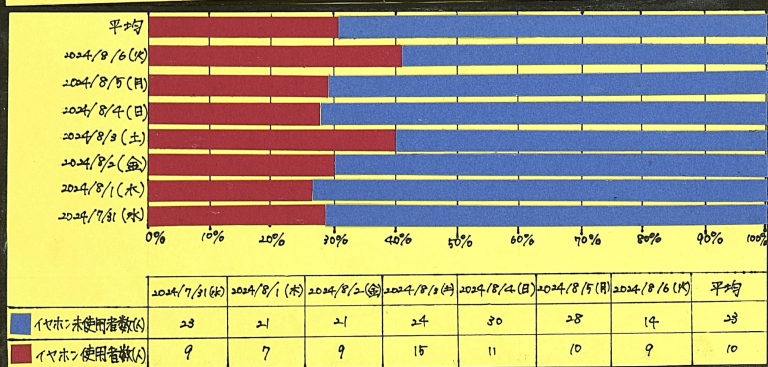
2) 調査方法

- 【調査①】 家から南甲府駅を経由し東花輪駅までの1車両に乗り合わせた人とイヤホンを付けている人の数を計測し、割合等を算出し②のアンケートと比較したり、実感を確かめる。
- 【調査②】 大学生へのアンケートを作成し、関係者の協力を得て実施し集計と考察を行う。

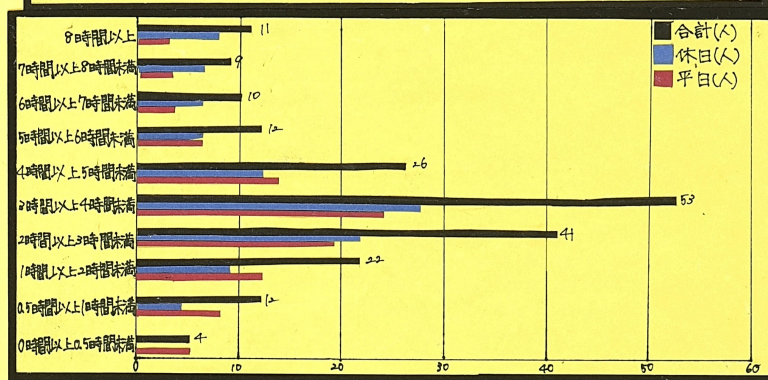
3) 期間

- 【調査①】 2024年7/31 ~ 8/6 までの7日間
- 【調査②】 2024年7/31 (53人), 8/3 (47人)

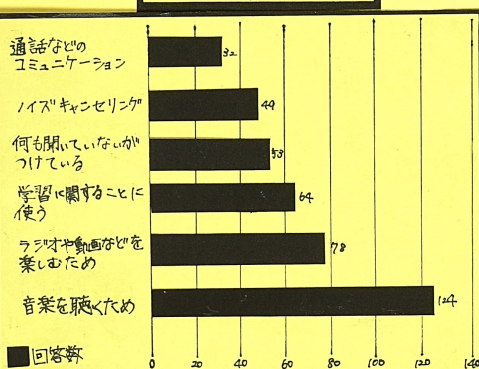
電車内でのイヤホン使用率【区間:JR身延線 南甲府から東花輪間 期間:2024年7/31~8/6 8:10~10:10】



一日にイヤホンをどれくらい付けているか(人)【2024年8月調査(9歳~21歳)100人対象】



イヤホンを使う目的(人)

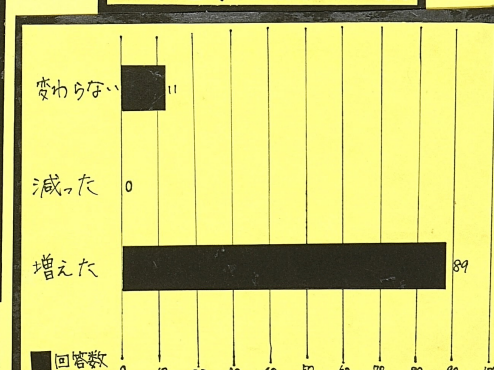


難聴リスク

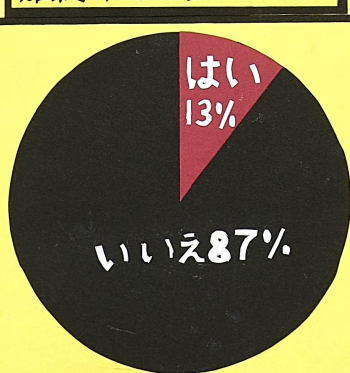
80dBで(週間当たり)40時間以上

11億人が音響性難聴に
世界の12~35歳人口の約半数が
将来的にリスクにさらされている

イヤホンを付ける時間の増減(人)



難聴の症状が出ているか(%)



4) まとめ

難聴の症状が出ている人の割合が13%と多く、電車内でのイヤホン使用率が60~75%と半数以上をしめていてこんなにもイヤホンをつけている人は多いのだと驚きました。

難聴にならないためにも
使用は必要最低限にすることが大切!!

質問4: 2年間、難聴などの症状で通院したことはありますか。